

和名	名前の由来等	科名
アオキ	青木。枝が青いことから。雌雄異株。生の葉は火であぶってよく揉み、火傷や切り傷に使った。適湿で肥沃地を好む。	ミズキ
アオギリ	青桐。葉が桐に似て幹が緑色であることから。沖縄以南。種子は煎ってコーヒーの代用にしたといわれる。桐の代用として下駄などに使った。	アオギリ
アオジクユズリハ	霧島, 高隈, 稲尾, 野首, 開聞, 屋久島。葉柄が青い。→ユズリハ	トウダイグサ
アオモジ	青文字。別名ショウガノキ, コショウノキ(実が辛い)。名の由来不明。雌雄異株。枝の模様からか?実, 蕾, 枝はシトラスの香り。	クスノキ
アカガシ	赤檜。材の色が赤いため。ツクバネガシに似るが, 葉は全縁で葉柄が長く, 大型。	ブナ
アカガシワ	Quercus rubra。別名レッドオーク。アメリカ東部原産で日本でも生産, 販売される。秋には紅葉する。林試内にあり。	ブナ
アカシア	Acacia属の樹木の総称。イヌエンジュ属のニセアカシアも「アカシア」と呼ばれ, 北原白秋作詞, 山田耕筰作曲の「この道」に出てくるアカシアはニセアカシアといわれる。	マメ
アカマツ	赤松。樹皮が赤くなることから。マツタケが生える。2葉。	マツ
アカメガシワ1	赤芽柏。芽が赤いことから。雌雄異株。パイオニアプランツ。この葉に食物をのせ, 神前に供える風習があることから菜盛葉とも呼ばれる。→カシワ	トウダイグサ
アカメガシワ2	葉の基部に蜜腺があり, アリが蜜を吸いに来る。	トウダイグサ
アキグミ	秋茱萸。秋に実が熟するグミ。海岸の緑化に使われる。葉裏は鱗毛が密生して, 銀白色。小枝にも白色の鱗毛が密生。ジャムにするとおいしい。→グミ	グミ
アキニレ	秋楡。花は9月。10-11月種子。若芽は食べられる。飢饉の時は種子も食べた。常緑樹のような葉。	ニレ
アキノキリンソウ	秋麒麟草。別名アワダチソウ。花の印象をベンケイソウ科のキリンソウ(黄輪草)にたとえた。アワダチソウは花穂を酒の発酵したときの泡に見立てた。	キク
アケビ	木通。果実が熟すと一方に縦裂し果肉が現れるから開け実, あくび, 開けつびという説, ムベは開かないがアケビは開くからアケウベという説もある。5小葉で落葉。新芽はゆでて食べる。	アケビ
アケビガキ	→ポポー	バンレイシ
アコウ	古くからの名。雌雄異株。ストラングラー(絞め殺し植物)で屋久島ではヤクタネゴヨウの大木に絡みついている。イチジクコバチ類が送粉を行う。	クワ
アジサイ	紫陽花。ガクアジサイ(本県にはない)の花序全体が装飾花に変化したもの。アジは集まるのアツで, サは真, イは藍が約されたもの。青い花が群れて咲くから。	ユキノシタ
アズサ	→ミズメ	カバノキ
アスナロ	明日檜。ヒノキに似ているが, ヒノキほどの材質ではないため, いつかヒノキになりたいという意。材は芳香があり耐朽性があり, 土台などに使用。木曾五木。	ヒノキ
アセビ	馬酔木。別名アシビ。馬が食べると苦しむことから。有毒。鹿は食べないので奈良の春日大社はアセビが多いので有名。	ツツジ
アツハキミカヨラン	ユッカ(イトラン)属。アメリカ合衆国南部原産。幹は高さ0.5-2.5mで多数分岐する。葉はかたく厚い。明治中期に渡来。観賞用に植えられる。開花期は6月で径10cm近くの花を多数つける。秋にもう一度咲くこともある。	リュウゼツラン
アブラギリ	油桐。中国原産。採油の目的で天保14年(1843年)には植栽されている。野生化している。乾性油で印刷用に使われる。	トウダイグサ
アベマキ	コルク質が発達しているため, 樹皮が軟らかい。葉の裏は星状毛が密生。	ブナ

和名	名前の由来等	科名
アベリア	別名ハナツクバネウツギ, ハナゾノツクバネウツギ。中国原産のシナツクバネウツギとユニフローラの交配種。アベリアの名で親しまれる。道路の分離帯, 公園, 学校に植栽。萼は基部まで2-5裂。	スイカズラ
アボカド	タブノキと同じ, Persea属。	クスノキ
アマミセイシカ	奄美聖紫花。奄美大島。奄美特産のセイシカ。→セイシカ。花冠の斑点は淡黄緑色。3-5月に花。絶滅危惧Ⅰ類。	ツツジ
アマミヒイラギモチ	奄美柊。奄美大島特産で絶滅危惧Ⅰ類。若木の葉はヒイラギに似て, 奄美特産であることから。雌雄異株。	モチノキ
アメリカススカケノキ	北米東部原産。別名セイヨウボタンノキ, プラタナス。明治末期に渡来。3-5浅裂。モミジバより浅い。米国名ボタンウッド。	ススカケノキ
アメリカヒイラギ	北米原産の高木。葉の縁に針状の鋸歯があるが, 老木では全縁になる。実は11-12月に赤く熟し, クリスマスの飾りに使う。セイヨウヒイラギより葉が薄い。→セイヨウヒイラギ	モチノキ
アメリカフウ	北米原産。別名モミジバフウ。紅葉が美しい。葉はカエデに似て掌状5~7裂。	マンサク
アラカシ1	粗樫。西日本ではカシといえばアラカシをさす。葉が大きくて材が硬く枝ぶりが粗々しいことから。	ブナ
アラカシ2	葉の裏は粉白色。毛もあるが, ライターであぶると緑色に変わる。これはロウ物質の粉が分泌されていることがわかる。	ブナ
アリドオシ	蟻通。別名, 一両。葉の元に長さ1~2cmの長い針があり, 蟻を突き刺すように見えることから。果実が1年中有り通しと解し, 千両, 万両有り通しという縁起木とする俗説もある。	アカネ
イイギリ	飯桐。別名ナンテンギリ。雌雄異株。成長は早い。桐の葉に似て, 昔この葉で飯を包んだことによる。器具材, 下駄材。	イイギリ
イズセンリョウ	伊豆千両。伊豆の伊豆山神社の社有林に多かったことから。実は乳白色。	ヤブコウジ
イスノキ	柞木。古名。別名ヒヨンノキ。虫えいを吹くとヒョウヒョウと鳴る音から。材は重く緻密で, ナンコ玉, 樽, 木刀などに使われる。	マンサク
イタジイ	別名スタジイ。シイは古名。椎の音読みスイがなまったもの?実は食べられるがコジイには劣る。樹皮は縦に裂ける。大木が多い。	ブナ
イタビカズラ	イタビとはイヌビワの別名であり, イヌビワの似た葉を持ち, 茎がツル状であることによる。	クワ
イタリアンサイプレス	別名ホソイトスギ, セイヨウヒノキ, イトスギ。西アジア~南欧原産。庭園樹。	ヒノキ
イチイ	一位。材からしゃく(笏)をつくったのでその階位一位にちなむ。果実は食べられる。雌雄異株。	イチイ
イチイガシ	一位樫。優良なカシを意味する, 神聖な樫(厳樫, いつくかし)として扱われたことによる。実は食べられる。	ブナ
イチジク	西アジア原産。雌雄異株。寛永年間(1624~1643)に渡来。日本に雄株はない。→イヌビワ	クワ
イチョウ	銀杏。雌雄異株。2億年前から出現。鴨脚(ヤーチャオ, イチャオ)の中国宋時代の音読みの転化。平安から室町時代に渡来。ギンナンは多食すると死ぬ。材は彫刻やまな板に使う。	イチョウ
イチョウ2	精虫が発見された(1896年明治29年, 東京理科大学助手(東大理学部)平瀬作五郎)ことで他の裸子植物と区別される。根に近いところの葉ほど祖先の形に近い。	イチョウ
イチリョウ	一両→アリドオシ→ツルアリドオシ→ツルコウジ	アカネ
イトスギ	→イタリアンサイプレス	ヒノキ
イトラン	ユッカ(イトラン)属。アメリカ合衆国南部原産。葉の縁が糸状にほぐれて離れるため, イトランとつけられた。幹は極めて短く無茎に近い。寒さに強く庭園に用いる。初夏に径6cmの花を多数つける。	リュウゼツラン
イヌウメモドキ	犬梅擬。ウメモドキの全体に毛のないものをイヌウメモドキという。大口, 紫尾, 蘭傘田池。	モチノキ
イヌエンジュ	犬槐。本州以北。エンジュに似ることから。枝を折るとソラマメに似た匂いがする。林縁, 河岸。	マメ
イヌガヤ	犬樺。雌雄異株。カヤに似るが硬いので有用でなく, 食べられないから。葉はさわっても痛くない。あまり利用されない。	イヌガヤ

和名	名前の由来等	科名
イヌザンショウ	犬山椒。サンショウに似ているが役に立たないという意。若枝の針は葉腋の上部に1本付く。	ミカン
イヌシデ	犬四手。イヌは花穂の様子を子犬にみたてた。シデは四手（玉串やしめ縄などにつける白い布や紙で作ったもの）のことで、花穂の様子を四手にみたてた。花期は4-5月。花瀬以北。	カバノキ
イヌツゲ	犬黄楊。雌雄異株。ツゲに似ているが、材が劣るという意。葉は互生。本県中北部に分布。→ツゲ	モチノキ
イヌツゲ2	葉柄1-2mm, 葉身1-3cm。葉が小さく長さ6-15mmの品種をコバノイヌツゲという。	モチノキ
イヌビワ	犬枇杷。古名イチジク。果実がビワに似て食べられるが、ビワより劣るため。雌雄異株。果実は食べられる。	クワ
イヌブナ	材質がブナに劣るため。別名クロブナ。樹皮が黒褐色。	ブナ
イヌマキ	犬楨。雌雄異株。真木（マキ=コウヤマキ?スギ?アスナロ?）に対し犬は価値のないという意。葉はラカンマキに比べてやや大型。	マキ
イブキ	伊吹。別名バクシン。伊吹は茨城県多賀郡十王町伊吹山をさし、分布の北限地である。海岸沿いの砂上、岩上に生えるが、本県では屋久島、霧島大浪池。雌雄異株。	ヒノキ
イボタノキ	水蠟の木。樹皮にイボタロウムシがよく寄生することによる。このムシが分泌する白いロウをイボタロウと呼び、止血、強壮などの薬用のほか、家具のつや出しや戸の滑りをよくするために使われた。	モクセイ
イロハモミジ	別名高雄紅葉。モミジの代表種。葉の裂片が7つでいろはにほへとと7つ数えることから。別名は京都の高雄が名所であることから。→オオモミジ, ヤマモミジ	カエデ
ウシクマツ	別名タギョウショウ。アカマツの園芸品種で多数の枝に分かれて、全体は傘形になる。高さ1.5-2.4m。ウシクマツ型は枝が上方を向く。	マツ
ウシクマツ2	タギョウショウ型は枝が広がる。滋賀県甲西（コウサイ）町の自生ウシクマツは天然記念物。	マツ
ウスギモクセイ	淡黄木犀。淡い黄色の花の色から。ギンモクセイの変種。花は淡黄色で香りは少ない。中国、インドに分布。九州に自生種ありとされる。キンモクセイより葉がやや大きい。翌年の5月に黒褐色に熟す。	モクセイ
ウツギ	空木, 卯木。卯月（4月）に花が咲くとか、材の芯が空ろであることから。桐箆等の木クギに使用した。桐箆等はかんなで削って新しく更正するが、金クギではカンナがかけられないから。	ユキノシタ
ウバメガシ	姥芽檜。新芽が茶色であることから「姥の目」や「馬の目」にたとえたという説やタンニンを含む若葉をお歯黒に使ったので姥芽の意味という説がある。備長炭を作る。海岸に生育し乾燥に強い。	ブナ
ウメ	梅。薬用の烏梅（うめ）または梅の漢音meiからの転化。中国中部原産。寺に多く見られるのは、薬用（実をススでいぶし、黒くしたもの：烏梅；清涼収斂剤）として使われたから。	バラ
ウメモドキ	梅擬。葉が梅の葉に似ていることから。雌雄異株。霧島, 高隈, 甬与志, 稻尾。葉の両面に毛がある。	モチノキ
ウラジロガシ	裏白檜。葉裏が白いため。葉は細く、裏は蠟質を分泌し粉白色。	ブナ
ウリカエデ	瓜楓。雌雄異株。樹皮がマクワウリの果皮に似ていることから。九七峠, 霧島, 北永野田, 猿ヶ城。葉は浅く3-5裂。基部は浅いハート形。	カエデ
ウリノキ	葉の形がウリの葉に似ていることから。霧島, 大口, 紫尾, 金峰, 辻岳, 京岳（南限）。→シマウリノキ	ウリノキ
ウリハダカエデ	瓜膚楓。若木の樹皮がマクワウリの果皮に似ていることによる。葉は扇状五角形で浅く3-5裂。雌雄異株。	カエデ
ウルシ	漆。中国, ヒマラヤ原産。うるしる（潤液）, ぬるしる（塗汁）の略。樹液は酸にもアルカリにも侵されないため、漆器に使う。国産漆は需要の1%。	ウルシ
ウンリュウヤナギ	雲竜柳。中国原産。花材, まな板。雌雄異株。枝が曲がりくねって垂れ下がる。	ヤナギ
エゴノキ	えごい（えぐい）ことによる。未熟な種子は有毒なサポニンを含むので魚毒として利用された。材はねばり強く素直なので、傘の柄, 琉球漆器等に利用。	エゴノキ

和名	名前の由来等	科名
エドヒガン	江戸彼岸。春の彼岸の頃に咲き、東京に多く植えられていたことから。寿命が長く、巨木が多い。花は葉より先に開く。	バラ
エノキ	榎木。古名はエ（枝）。枝の多い木、器具の柄に利用するから。よく燃える木、モエキの略。秋に実は橙熟し子どもが食べた。ムクノキとともに神社に植えられているのが多い。	ニレ
エノキウツギ	別名ヒシバウオトリギ。石垣島、台湾。魚捕木というが魚を捕らえるのに使うかどうかは明らかでない。	シナノキ
エビヅル	海老蔓。実は黒色で食べられる。若い葉や茎の色を海老の色に見立てた。	ブドウ
エンジュ	槐。古名エニスから転化。中国原産。仏教伝来と同時に渡来。つぼみからとるルチンと呼ばれる黄色の色素は薬用。	マメ
オオイタビ	雌雄異株。大イタビカズラの略。実は食べられる。園芸でブミラの名前。	クワ
オオカナメモチ	大要藟。奄美、徳、沖。カナメモチより葉が大きい。生け垣。絶滅危惧Ⅰ類。	バラ
オオシマザクラ	大島桜。伊豆大島の大島に多く産することから。葉は塩漬けにして桜餅。実生苗はサトサクラの台木。潮風や大気汚染に強い。本県にはない。本州、伊豆諸島。	バラ
オオデマリ	大手鞠。花序が球形で大きな白色の不燃の花のみからなる。庭園に栽培。	スイカズラ
オオバイボタ	大葉水蠟。6-7月白色の花を多数付ける。大気汚染に強い。江戸時代末アメリカに導入され、生け垣にされている。	モクセイ
オオモクセイ	大木犀。雌雄異株。	モクセイ
オオモミジ	大紅葉。イロハモミジの亜種ともいわれる。太平洋側のブナ帯に分布。葉はイロハに似るが大型。ヤマモミジは本種の1品種。→ヤマモミジ	カエデ
オガタマノキ	招霊の木。招霊（オキタマ）の転化。枝を神前に供えて神霊を招禱（おき）たてまつるというのに基づく。神社によく植えられ、神事に使われる。花は香料、材は床柱、器具材。	モクレン
オトコヨウゾメ	葉の質はコバノガマズミよりやや薄い。折れたところが黒くなる。赤実は垂れ下がる。→コバノガマズミ	スイカズラ
オナモミ	アジア大陸原産。有史以前からの帰化植物。	キク
オニグルミ	鬼胡桃。大口、紫尾山。核面に凸凹があり、醜いから。川沿いや窪地の湿潤地。種子は食べられる。	クルミ
オリーブ	地中海原産。江戸時代に導入。香川県小豆島が産地。黒褐色に熟した実からオリーブオイルを採取。未熟な果実は塩漬けにする。	モクセイ

和名	名前の由来等	科名
カイコウス	海紅豆。別名アメリカデイゴ。南アメリカ原産。鹿児島県の県木。	マメ
カイズカイブキ	貝塚伊吹。大阪府の貝塚で改良されたことにちなむ。栽培品。葉は鱗片状であるが、むやみに刈り込むと針状となる。カイズカイブキは庭木や生け垣に用い、イブキは海岸や寺院に植えられる。	ヒノキ
カキノキ	別名ランシンボク。雌雄異株。中国、台湾、フィリピン原産。深紅に紅葉。中国の孔子廟に植えられ、学問の聖木とされる。	ウルシ
カキノキ2	東京の湯島聖堂や岡山の閑谷（しずたに）学校に植えられる。木目が細かく碁盤を作る。芳香油もとれる。ピスタチオと同じ仲間。	ウルシ
カキノキ	中国原産。赤黄（あかき）で、果実の色と紅葉の色にちなむ。暖地ではアマガキが多く、寒地ではシブガキとなる。	カキノキ
カキノキ2	へたは柿蒂（してい）と呼び、しゃっくり止めに使われた。未熟な柿からは柿渋が作られ、木製品に塗ったり、漆塗りの下地に使われる。	カキノキ
ガクアジサイ	額紫陽花。四国（足摺岬）以北。装飾花を額にたとえた。ヤマアジサイより枝や葉が大きい。	ユキノシタ
ガクウツギ	額空木。ウツギに似ていて、4枚の装飾花を額に見立てた。コガクウツギ（コンテリギ）は3枚。白い飾り花。	ユキノシタ
カクレミノ	隠蓑。葉の形が身を隠すのに着る蓑にたとえたもの。ヒヨドリが好む。3列葉ときには全縁葉。照度が30%以下になると葉は裂ける。	ウコギ
カゴノキ	鹿子木。樹皮がのちに鹿の子まだらとなるため。雌雄異株。	クスノキ
カシ	櫟。カシは、堅し（かたし）、櫟木（かしき）が変化したもの。	ブナ
カジノキ	梶木。昔南から伝来したものとされる。雌雄異株。樹皮は紙の原料だが、コウゾより品質は劣る。平安時代の七夕では葉に詩歌を書き、竹に下げた。	クワ
カジノキ2	ポリネシアではコウゾの樹皮をたたき薄く広げたものを布の代わりに使う（タパ）。日本でも古くはカジノキから同様の製法で栲（たえ）が作られた。	クワ
ガジュマル	榕樹。ストラングラー（絞め殺し植物）の代表。イチジクコバチ類が送粉を行う。巨木になる。	クワ
カシワ	柏。けしきは（食敷葉）からケシハとなりカシハとなった？炊葉の意で昔は食べ物を盛り、今は柏餅を包む。火に強い。枯れた葉がいつまでも残るので、縁起をかついで庭木にする。	ブナ
カツラ	桂。カツは香出（かつ）から。桂は本来はモクセイのこと。雌雄異株。材は軟らかいが、均質で狂いも少ないため、鍵盤、引出の内側などに利用。碁盤の中級品。落葉期は砂糖を焦がしたような甘い香りが漂う。	カツラ
カナクギノキ	樹皮の鹿の子模様の鹿の子がなまったものといわれている。クスノキ科の高木で唯一の落葉樹。楊子や細工物に用いられる。	クスノキ
カナメモチ	要藪。モチノキに似て扇の要に使われたからという説がある。生け垣。曾木の滝、紫尾山、諸浦。	バラ
カナリーヤシ	カナリヤ諸島原産。雌雄異株。低温に強く、公園や街路樹。果実は橙色に熟し食べられる。→フェニックス	ヤシ
ガマズミ	ガマは神？、ズミは染めの転化。古くは果実で衣類を染めていたため。実は酸っぱいが食べられる。材は粘り強く、折れにくいことから器具の柄に使われる。	スイカズラ
カマツカ	鎌柄。材が丈夫で折れにくく、鎌の柄などに用いられたため。霧島、不計、高隈。	バラ
カヤ	榎。古名のカヘが転化。雌雄異株。さわると痛い。碁盤の高級品。種子は炒るとおいしい。農家の庭に雌株が良く植えられている。	イチイ
カラスザンショウ	烏山椒。役に立たないのでカラスという言葉をつけた。海岸部の湿った場所に多い。雌雄異株。古くは下駄などを作った。	ミカン
カラタチ	唐橘。中国原産。唐から渡来したタチバナの略。生け垣、柑橘類の台木。実は食用に適さない。	ミカン

和名	名前の由来等	科名
カラタチバナ	別名百両。別名タチバナ。マンリョウやセンリョウに対して品格が落ちるため、百両という方言がある。葉が細長い。	ヤブコウジ
カラタネオガタマ	唐種招霊。→トウオガタマ	モクレン
カリン	花梨。中国原産。4-5月桃色の花。実は堅く渋みがあるので、生では食べられない。果実酒、ジャム、ゼリー。材は緻密で硬く、床柱。	バラ
カンコノキ	葉がカンコ船に似ることから。雌雄異株。	トウダイグサ
カンザブロウノキ	由来不明。バクチノキの葉に似る。	ハイノキ
カンレンボク	旱蓮木。中国中南部原産。大正時代に渡来。バナナ形の果実が球状に集まる。果実や根にカンプトテシンを含み、制ガン作用が認められる。	オオギリ
キシケイ	黄素馨。ヒマラヤ原産。5-7月黄色の花。	モクセイ
キシゴボク	木曾五木=ヒノキ、サワラ、クロベ、アスナロ、コウヤマキ	
キツタ	木蔦。ツタに似てより木質の意。常緑なのでフユツタともいう。	ウコギ
キハダ	黄膚。幹の内皮が黄色いから。雌雄異株。樹皮は粗くコルク質が発達し、指で押すと軟らかい。内皮は黄檗（おうばく）と呼び、薬用。	ミカン
キブシ	木五倍子。果実をふし（五倍子）の代用にしたため、または花序が藤に似て黄色であるため黄藤との説。早春の花の代表。	キブシ
キミガヨラン	君代蘭。Yucca gloriosaを本種の学名にしていた頃に栄光あるという種小名から、君が代は栄えるという意でついた。北米原産、明治時代に渡来。20年に一度花をつける。	リュウゼツラン
キミガヨラン2	ユッカ（イトラン）属。アメリカ合衆国ジョージア州原産。葉は湾曲する。日本では結実しない。寒さに強く古くから庭園に用いる。	リュウゼツラン
キョウチクトウ	夾竹桃。狭い葉でモモの花に似ていることから。有毒で噛むと苦い。大気汚染に強い。強心配糖体と呼ばれるステロイド類が含まれる。	キョウチクトウ
キリ	切れば早く成長することから。日本産の材で最も軽く、丈夫で燃えにくいことから様々な利用。琴、金庫の内張、桐タンスの材料。	ゴマノハグサ
キリシマグミ	→クマヤマグミ	グミ
キリシマミズキ	霧島水木。高知、愛媛、霧島の岩地。4月淡い黄色の花。	マンサク
キンコウボク	金厚木。ヒマラヤ〜タイ、ビルマ、熱帯アジア原産の熱帯花木。花は黄色あるいは黄褐色で香りが良く、レイや髪飾りなどの装飾用、花に含まれる精油は香料。	モクレン
ギンコウボク	銀厚木。中国南部、熱帯アジア原産。花は白色で香りが強い。冬の最低温度は7度が必要。	モクレン
キンモクセイ	中国原産。白花のギンモクセイに対し、橙色の花を金に見立てた。キンモクセイの変種。雌雄異株。日本にあるのは雄株しか知られていない。大気汚染がひどい地域では花付きが悪いとされている。	モクセイ
ギンモクセイ	中国原産。雌雄異株。モクセイは漢名の木犀から。白花。キンモクセイより鋸歯のある葉が多い。翌年の春に黒褐色に熟す。	モクセイ
キンモクセイ2	中国から渡来したというのが通説だったが、日本でウスギモクセイから育成されたという見解もある。	モクセイ
クコ	漢名に由来。果実は強壯薬のほか、クコ酒、クコ飯に使われる。東南アジアでは野菜として利用。	ナス
クサイチゴ	草莓。草のように見えるイチゴの意。日当たりのよい林縁、崖斜面、林内の肥沃地に生育。6月頃赤い実。	バラ
クサギ	臭木。独特の臭気から。若葉はゆでて食べる。	クマツツラ

和名	名前の由来等	科名
クサボケ	草木瓜。霧島。ボケの花に似ていて小型の低木なのでクサがついた。果実はかたいが、果実酒や塩漬けや焼酎漬けにする。	バラ
クストイゲ	イゲは刺のこと。ハリネズミの古名をクサフといい、クサフイゲからクスノイゲ、さらにクストイゲに変化したという。沿海地の岩場。雌雄異株。材は堅く、櫛や細工物等。	イイギリ
クスノキ1	樟。楠は中国ではタブノキを指す。くすしき（臭しき）から。材から防虫剤の樟脳をとる。蒲生町のものが日本最大。目通し周り24m、樹齢推定千数百年。	クスノキ
クスノキ2	葉裏に樟脳がないと生活できないフシダニが住むダニ室がある。	クスノキ
クチナシ1	口無。実が熟しても開裂しないことによる。また宿存するくちばし状のガクをクチと呼び、細かい種子のある果実をナシに見立てたともいわれる。	アカネ
クチナシ2	果実は黄色の染料に適し、栗きんとんに混ぜると鮮やかな黄色になる。	アカネ
クヌギ	桐、櫟、橡。くりにぎ（栗似木）の転化？シイタケの原木。鋸歯の先は緑色ではないので、クリと区別できる。葉裏は脈状を除き無毛。	ブナ
クマノミズキ	熊野水木。和歌山県熊野に産するミズキの意。ミズキに比べると乾燥地に多い。葉は対生。先駆性樹種。	ミズキ
クマヤマグミ	久万山茱萸。別名キリシマグミ。愛媛県の久万山で最初に採集されたため。霧島、高隈。	グミ
グミ	茱萸。グミとはグイミ（とげ）からの転化。	グミ
クリ	縄文時代から食用としていた。鋸歯の先は葉肉組織が発達。	ブナ
クロガネモチ	黒鉄藜。樹皮からトリモチが取れ、葉や枝の色（くろがね色）に由来する。雌雄異株。	モチノキ
クロキ	黒木。木灰は水に浸しておくとおアルカリ性の灰汁がとれる。これを染色の媒染剤として、あるいは食品加工に使った。また灰そのものも肥料などに使った。	ハイノキ
クロマツ	黒松。樹皮が黒色であることから。葉はアカマツに比べて豪壮で、手で触ると痛い。防潮・防風林。2葉。	マツ
クロモジ	黒文字。雌雄異株。樹皮に現れる黒い斑点を文字になぞらえた。材や枝に芳香。葉は裂けない。本県にない。福岡以北。	クスノキ
クワ	桑。別名マグワ。雌雄異株。中国原産。養蚕のために栽培していたものが、野生化している。クワの葉の先端はヤマグワより尾状に伸びず、分布域が違う。九州北部以北。	クワ
ケウバメガシ	毛姥芽櫟。葉裏に星状毛を密生する型。基本種とほぼ同じ範囲に分布。	ブナ
ゲッケイジュ	月桂樹。別名ローレル。雌雄異株。地中海沿岸原産。明治に渡来。葉や果実は芳香があり、香料や薬用にされる。	クスノキ
ゲッケイジュ2	葉はベイリーフと呼ばれ生葉や乾燥したものをカレーやシチューなどのスパイスに使う。マラソン優勝者への冠。	クスノキ
ゲットウ	月桃。漢名の音読み。沖縄ではサネンと呼び、団子を包む。	ショウガ
ケヤキ	櫟。けやけき木で目立つ木という意。材は木目が美しく狂いがなく、重要な材。巨木や名木が多い。大口市に巨木。	ニレ
ゲンノショウコ	現の証拠という意味で、薬効が顕著なことに基づく。陰干しにした葉を煎じたものは下痢止めの薬として有名。	フウロソウ
ケンボナシ	玄圃梨。果実の形から手棒梨の転化という説。果実は食べられる。葉柄の上端付近にあまり目立たない腺体。	クロウメモドキ
コウゾ	楮。カミソ（紙麻、神衣）の音便。ヒメコウゾとカシノキの雑種。山地に野生化している。	クワ
コウヤマキ	高野槇。紀州高野山に多く、この名が付いた。別名マキ。材は上質で甘い香り。耐朽性がある。	スギ
コウヤマキ2	樹皮は槇皮（まいはだ）と呼び、ほぐして和船や桶などの水漏れ防止に使用。ヒマラヤスギ、ナンヨウスギとともに世界3大庭園樹。木曾五木。	スギ
コウヨウザン	中国原産で江戸時代に渡来。広葉杉の意。日本では少ないため用材として利用されることはない。成長はよい。	スギ
コクサギ	小臭木。ミカン科の特徴である特有の臭いがあることから。昔は肥料として、田の中にすき込んだ。	ミカン

和名	名前の由来等	科名
コクテンギ	黒檀木がなまったもの。海岸付近の山地にまれに生える。葉は対生ときに3輪生。沖永良部以北。南方系の植物なので、北限に近い鹿児島は紅葉し落葉することが多い。	ニシキギ
ココスヤシ	別名ヤタイヤシ。アルゼンチン、パラグアイ原産。果実は黄色からあかね色に熟し食べられる。カナリーヤシに似るが、葉柄には毛があり、葉裏は白っぽい。	ヤシ
ココヤシ	別名ヤシ。原産地不明。熱帯の有用樹。未熟な胚乳をココナッツミルクとして飲用。	ヤシ
ココヤシ2	成熟した胚乳を乾燥させたものをコブラと呼び、ヤシ油を絞ったり、食用油やマーガリンの原料にする。果実の繊維はロープやマットにする。	ヤシ
コシアブラ	漉油。樹液はゴンゼツ（金漆）といい、漉して塗料に使われたから。5小葉。山菜。材は白く緻密で、山形県の笹野一刀彫に使われる。	ウコギ
コジイ	小椎。別名ツブラジイ（円ら椎）は、果実が円い（つぶら）から。実は食べられる。コジイも堅果が小ぶりなので。	ブナ
コショウノキ	胡椒木。実は赤く、噛むと辛いことからついた。	ジンチョウゲ
コナラ	小櫓。クヌギと並んで、雑木林を代表する樹種。シイタケ原木。かつては葉を集めて堆肥にして水田の肥料にした。	ブナ
コノテガシワ	児手柏。中国原産。枝や葉が手のひらを合わせて立っている様子から。	ヒノキ
コハウチワカエデ	別名板屋名月（イタヤメイゲツ）。ハウチワカエデに似るが、葉が小さい。別名はメイゲツカエデなのにイタヤカエデに似るから。	カエデ
コバノガマズミ	オトコヨウソメに似るが、葉は厚く、黒変しない。	スイカズラ
コバンモチ	小判糰。葉がモチノキに似ているが、広いので徳川時代の小判に見立てた。シイタケ原木。	ホルトノキ
コブシ	辛夷。集合果が握り拳に似ていることから。花の下に小型の葉がある。大口、新川溪谷、大鳥峡。3-4月花期。	モクレン
コフジウツギ	小藤空木。ウツギに似て藤のような紫花であることから。有毒。魚毒に使った。	フジウツギ
コムラサキ	小紫。庭によく植えられる。自生個体はめったにない。	クマツツラ
ゴモジュ	奄美、喜界、徳。葉をこするとごまの香りがし、ゴマ樹がゴモジュに転化？	スイカズラ
ゴヨウマツ	五葉松。別名ヒメコマツ。高隈山。葉が5葉に束生していることによる。	マツ
ゴヨメナ	インドヨメナ。ヨメナとの区別は困難。分布は垂水・根占・岸良・佐多・山川・開聞・屋久島・種子島・宝島・奄美諸島	キク
ゴンズイ	権萃。樹皮の模様がゴンズイに似ているからとか、どちらも役に立たないからともいわれている。	ミツバウツギ

和名	名前の由来等	科名
サカキ	榊。本来サカキは栄木と書き常緑樹の総称であった。神事で使うため榊がつくられた。ホンサカキとよぶ。	ツバキ
サクラ	樹皮が横に裂ける（さくる）から。皮が粗く裂けるから。派手に咲き誇る（栄える）、繁栄の意。うららかに咲く意のさきうら（咲麗）から。さきむら（咲叢）から。このはなさくや姫（木花開姫）から。	バラ
ザクロ	石榴。実が割れる音による。小アジア、南ヨーロッパ原産。実は生食する。樹皮は駆虫薬に使う。果実は鬼子母神に供える。	ザクロ
サザンカ	山茶花。古名。花期は10～12月。葉が長楕円でツバキよりも小型。若い枝や裏面の脈上、果実、果梗などに毛がある。	ツバキ
サツキ	臯月。屋久島以北。ほかのツツジ類より花期が遅く、陰暦の五月頃（5-7月）に咲くことによる。盆栽や庭木。2000以上の品種。	ツツジ
サネカズラ	実葛。別名ピナンカズラ。秋の実が美しいことから。枝の皮の粘液を水に浸出して整髪に用いた。	マツブサ
サルスベリ	猿滑。中国、インド原産。樹皮が赤褐色で平滑であることから。花期が百日にわたることから百日紅という。葉には葉柄がほとんどなく、両面無毛。	ミソハギ
サルトリイバラ	猿捕茨。方言名カカラ。トゲがあり猿が引っかかる意。若葉でモチを包む（かからんだご）。雌雄異株。	ユリ
サルナシ	猿梨。雌雄異株。果実は秋に熟し、甘酸っぱく梨に似る。サルが食べる梨の意。ツルは丈夫で徳島県祖谷川にかかるかずら橋は有名。キウイフルーツの仲間。	マタタビ
サワアジサイ	→ヤマアジサイ	ユキノシタ
サワラ	榎。鹿児島島の方言で「ナロ」。スギとヒノキのあいの子と言われ、明日はヒノキになろうか？スギになろうか？で「なる」とされた。和名はサワラギの略で、ヒノキに比べて材がさわらか（やわらか）であることによる。材は黄色みを帯び、スギより軟らかく、爪で押すと簡単に傷つく。このため人気がなく、新植されることはない。風呂桶や手桶をつくる。	ヒノキ
サンゴジュ	珊瑚樹。果実の色による。大気汚染に強い。都市の緑化樹。	スイカズラ
サンシュユ	山茱萸。中国、朝鮮半島原産。中国名の山茱萸を音読みしたもの。3-4月黄色の花が美しく庭木、公園樹。	ミズキ
サンショウ	山椒。古名ハジカミはハジカミラの略。ハジははぜる、カミラ（ニラの古名）は味の意。若い枝では葉が落ちた後の両側に針が2本つく。	ミカン
シキミ	全体的に有毒で特に果実は猛毒。創価学会では仏壇に供える。悪しき実からの転化。	モクレン
シダレザクラ	枝垂桜。細い枝がしだれるサクラをいう。ほかの形質はエドヒガンと同じ。最近の研究で、枝や葉の成長が、しだれない種類より速いため、自重によって枝が垂れ下がり、その後木質化し固定されることがわかってきた。	バラ
シダレヤナギ	枝垂柳。別名イトヤナギ。中国原産で古くから植えられ、野生化。雌雄異株。ヤナギの代表種。	ヤナギ
シナノガキ	西アジア原産。中国から渡来。柿渋をとるために栽培。別名マメガキ。雌雄異株。葉裏は軟毛あり。葉柄はリュウキュウマメガキより短い。	カキノキ
シナノキ	科の木。皮がシナシナすることから。本県になし。樹皮は繊維が強くシナ布を織り、船のロープにした。	シナノキ
シマウリノキ	葉に切れ込みがない。佐多岬以南に分布。→ウリノキ	ウリノキ
シマサルスベリ	島百日紅。喜、奄、徳、沖永、沖縄、台湾。葉柄はごく短い。葉裏の脈腋に開出毛あり。花は6-8月、白色。	ミソハギ
シマトネリコ	別名タイワントネリコ。亜熱帯～熱帯。沖縄。雌雄異株。	モクセイ
シマナンヨウスギ	→ナンヨウスギ	ナンヨウスギ
シモクレン	→モクレン。	モクレン
シャシャンボ	小小ん坊。まるい小さな実が多数付く様子を小さい坊や、つまり「小小ん坊（ささんぼ）」と呼んだものが転化。5-7月白い鐘のような花。	ツツジ

和名	名前の由来等	科名
シャリンバイ	車輪梅。葉が輪生状に出て（車輪に見立てる）梅のような花をつけるから。樹皮は大島紬の染料。	バラ
ジュウリョウ	十両→ヤブコウジ	ヤブコウジ
シュロ	棕櫚。雌雄異株。漢名の音読み。古名スロ。中国から移入したという説があるが、九州南部に自生している。葉鞘の繊維は、縄やほうきに利用、材は鐘をつく撞木（しゅもく）に使われる。葉の先が垂れる。	ヤシ
ショウベンノキ	小便木。木を切ると水が多く出ることに基づく。3出複葉。	ミツバウツギ
シラカシ	白樫。材が白色であることから。古くから器具材として使われてきた。クワ、スコップの柄、麵棒など	ブナ
シラキ	白木。材が白いことから。紅葉が美しい。	トウダイクサ
シリブカガシ	尻深樫。どんぐりの底がへこんでいるので、尻深の名が付いた。葉裏がマテバシイに似ている（マテバシイ属）。	ブナ
シロダモ	白樟。葉裏が白いダモ（クスノキ科の総称）の意。種子の油をつづ油といいろそくの原料とした。	クスノキ
シロドウダン	白満天星。霧島、高隈、稲尾、野首（南隈）。岩上、硫黄の噴気荒原などにも自生。花冠の裂片がドウダンツツジよりさらに細かく切れ込む。→ドウダンツツジ	ツツジ
シロモジ	白文字。雌雄異株。別名アカジシャ。和名はクロモジに対しての、別名はシロジシャ（ダンコウバイ）に対して。種を絞って灯油にした。葉は深く3裂し、基部はくさび形。	クスノキ
スイカズラ	花は甘味があり幼児が口を付けて花を吸うことから。葉は冬には黒くなり、丸まって冬を越すことから忍冬とも言う。花の香りはよい。	スイカズラ
スギ	杉。幹が直立しているから直木（すき）が変化したもの、あるいはすくすく立つという意。屋久島に縄文杉。	スギ
スズカケノキ	鈴懸の木。別名プラタナス。バルカン半島からヒマラヤ原産。球形の花序が連なって垂れ下がっている様子を山伏が首に懸ける篠懸（すずかけ）に見立てた。葉は5-7深裂。	スズカケノキ
ススキ	神楽に用いる鳴り物用の木、すなわちスズの木という意。	イネ
スタジイ	別名イタジイ。シイは古名。椎の音読みスイがなまったもの？実は食べられるがコジイには劣る。樹皮は縦に裂ける。大木が多い。	ブナ
ズミ	酸実。樹皮を黄色の染料にしたので染み（そみ）の意。4-5月桃色の花、10-11月赤色の実。かつてはリンゴの台木。	バラ
セイシカ	聖紫花。石垣、西表。花が清楚で美しいことから。花の斑点は紅紫色。3-5月に花。	ツツジ
セイトカアワダチソウ	北米原産。明治30年頃に渡来した帰化植物。丈の高いアワダチソウの意。	キク
セイヨウトチノキ	→マロニエ	トチノキ
セイヨウヒイラギ	西洋柊。西アジア～欧南部原産の高木。4-5月に白い花。11月に赤い実。成木になると枝先の葉は全縁になる。「クリスマス・ホリー」と呼ばれ、園芸品種が多い。別名ヒイラギモチ。→ヒイラギモチ、アメリカヒイラギ	モチノキ
セイヨウヒノキ	→イタリアンサイプレス	ヒノキ
センダン	梅檀。名の由来は不明。海岸に近い山地に生育。樹皮や果実は駆虫剤、生の果肉はひびやしもやけに効く。材は赤褐色で木目は粗い。家具や下駄などに使う。	センダン
センダン2	西行法師の「センダン（梅檀）は双葉よりかんばし（芳し）」のセンダンはビャクダン科のビャクダンのことで本種には芳香はない。	センダン
センリョウ	千両。万両に対して千両の意。正月用の飾り物として栽培されている。キミ（黄実）ノセンリョウもある。	センリョウ
ソテツ	蘇鉄。雌雄異株。よみがえる意の蘇で、枯れそうになったとき鉄クギを刺すと蘇生するといわれることから。古くは沖縄、奄美で飢饉の時は幹の中にあるテンブンを洗い出して食用とした。	ソテツ
ソテツ2	ソテツは精虫を作ること、他の裸子植物と区別される。1896年明治29年、東京農科大（東大農学部）講師池野成一郎が鹿児島県博物館のソテツから発見した。	ソテツ

和名	名前の由来等	科名
ソメイヨシノ	染井吉野。江戸時代に染井（豊島区駒込）の植木屋から広まり、桜の名所にちなみ吉野と呼んでいたが、吉野の山桜と混同するので明治5年に染井吉野となった。オオシマザクラとエドヒガンの伊豆大島での自然交雑。	バラ
ソヨゴ	別名フクラシバ。そよぐの意で、葉が風に吹かれてザワザワと音をたてることから。長野、山口の一部ではサカキの代用。タンニンを含み、褐色の染料。ギターサウンドホールの周囲の象嵌（そうがん）に使用。	モチノキ

和名	名前の由来等	科名
ダイオウショウ	大王松。北米東南部原産。マツ属の中では最も長い葉を持ち40-50cm。正月の花材として多用。3葉。樹皮は大きく裂ける。	マツ
タイサンボク	泰山木。泰山木は花や葉が大きいので賞賛した名。北米原産。明治初年に渡来した。	モクレン
タイワンオガタマ	石垣、西表、与那国。	モクレン
タイワンスギ	台湾杉。台湾、ビルマ北部、中国原産。耐寒性有り。庭木として利用。Taiwania Hayata。	スギ
タイワンツバキ	台湾、中国南部原産。大正3年に渡来。京都桃山御陵に植栽。鹿大農学部にも5本。11-12月開花。	ツバキ
タイワントネリコ	→シマトネリコ	モクセイ
タカノツメ	鷹爪。3小葉。冬芽の形がタカの爪にたとえたもの。煮ると芋の匂いがするのでイモノキともいう。	ウコギ
タギョウショウ	別名ウシクマツ。アカマツの園芸品種で多数の枝に分かれて、全体は傘形になる。高さ1.5-2.4m。タギョウショウ型は枝が広がり、ウシクマツ型は枝が上方を向く。	マツ
タチバナ	橘。→ニッポンタチバナ	ミカン
タチバナモドキ	中国原産。別名ホソバトキワサンザシ。P.angustifolia。果実の形や色がミカン科のタチバナに似ていることから。葉は5-6cmの葉裏に毛が密生。花期は5-6月。果実は橙黄色。→トキワサンザシ→ヒマラヤトキワサンザシ	バラ
タブノキ	榊木。古名。葉や樹皮を粉にしたものを榊粉（たぶこ）またはホンコと呼び線香の材料とする。	クスノキ
タマイブキ	イブキの園芸品種。主幹が立ち上がらず、根元から枝が分岐し、自然に樹形が玉状となる。	ヒノキ
タマシダ	シダ。	タマシダ
タラノキ	古名。パイオニアプランツ。山菜の王様。	ウコギ
タラヨウ	多羅葉。雌雄異株。葉の裏をなぞると文字が書けるため、昔葉面に傷つけて経文を書いたヤシ科のバイタラ（貝多羅、ウチワヤシ、オウギヤシ、タリポットヤシ）の樹の葉にたとえた。	モチノキ
ダンコウバイ	檀香梅。雌雄異株。別名シロチシャ。本来はロウバイの1品種に付けた名であったが、明治に田中芳男がこの木の和名に転用した。本県にない。葉は浅く3裂する。材は芳香。	クスノキ
ダンチク	別名ヨシタケ。竹に似たヨシの意。海辺や河岸に生える。屋久島ではこの葉を使ってツノマキと称する三角形の一口サイズのちまきを作る。	イネ
チトセラン	チトセラン属（サンセヴィエリア属：イタリアの王子デ・サングロにちなむ）の総称で多年草。観賞用として鉢植えや庭に植える。アフリカやアジアの一部ではその繊維を弓のツル、釣り糸、ロープ、帆、ハンモック等に利用。	リュウゼツラン
チャノキ	茶木。中国原産。奈良時代、聖武天皇のころから薬用として伝わった。野生化している。緑茶は蒸した葉を乾燥させたもの、ウーロン茶は半発酵、紅茶は発酵させたもの。	ツバキ
チャンチン	香椿。中国原産。漢名の中国音シャンチェンが訛ったもの。中国では新梢の軟らかい部分を高級野菜。室町時代に渡来。京都宇治の黄檗山（おうはくさん）萬福寺では普茶料理に用いた。大型の庭木。トウヘンボクの名。	センダン
チャンチンモドキ	別名カナメノキ。熊本、鹿児島、中国、東南アジア。雌雄異株。天草に群落。センダン科のチャンチンに似ていることから。樹皮は縦に裂け薄くはがれる。	ウルシ
ツガ	榧。古名。モミと混生し、尾根上に多く生える。樹皮は赤褐色。暖温帯と冷温帯の境界に現れる。	マツ
ツクシイヌツゲ	筑紫犬黄楊。雌雄異株。葉柄3-5mm、葉身3-4.5cm、本県中南部に分布。	モチノキ
ツクシトネリコ	ヤマトアオダモの小葉の幅がやや広く、裏面の脈状に毛があるもの。本県にない。	モクセイ
ツクシャブツギ	筑紫藪空木。密生し藪になるから。パイオニアプランツ。	スイカズラ
ツクバネガシ	衝羽根檜。葉が小枝の先に4枚出つくばねに似ているため。葉の先端に少数の小さな鋸歯がある。沢沿いの急斜面に多い。	ブナ

和名	名前の由来等	科名
ツゲ	黄楊。次々に枝葉が輪生することから。俗にイヌツゲをツゲと呼んでいるため、本種はホンツゲと呼ばれる。葉は対生。石灰岩や蛇紋岩地に多い。	ツゲ
ツタ	蔦。伝うの意。古名アマツラは、開葉前の蔓には糖分が含まれ、これを煮詰めて甘味料とした。秋には紅葉し美しい。	ブドウ
ツタウルシ	蔦漆。ツタに似たツル性のウルシの意。3小葉。ブナ帯が中心。	ウルシ
ツツジ	中国では昔、ツツジの総称を躑躅(てきしよく)と呼んでいた。てきしよくは本来、足すり、足踏みという意である。この意から転じてツツジに用いられた。	ツツジ
ツバキ	椿。別名ヤブツバキ。→ヤブツバキ	
ツブラジイ	円ら椎。→コジイ	ブナ
ツリバナ	吊花。花や実が垂れ下がっていることによる。ぶら下がる果実が美しく、木全体にも風情があるので、庭園特に茶庭に植えられる。	ニシキギ
ツルアリドオシ	蔓蟻通。別名を一両。アリドオシに似てツル性だから。	アカネ
ツルウメモドキ	蔓梅擬。雌雄異株。ツル性でウメモドキに似ていることから。果実は10-12月に橙赤色に熟す。山野の林縁。	ニシキギ
ツルグミ	ツル性。葉裏は鱗毛が密着して淡褐～赤褐色。若枝にも赤褐色の鱗毛が密生。→グミ	グミ
ツルコウジ	蔓柑子。別名、一両。茎がツル状のヤブコウジの意。	ヤブコウジ
ツツブキ	石路。葉に光沢があるフキのような葉なので、ツツブキの転化といわれる。	キク
テイカカズラ	定家葛。歌人藤原定家にちなむ。大型のタンポポのような種子。	キョウチクトウ
テーダマツ	北米東南部原産。葉の長さは15-20cm, 3葉。松食い虫の害を受けない。樹皮は深く裂ける。	マツ
テリハツルウメモドキ	照葉蔓梅擬。雌雄異株。半常緑。果実は10-12月に橙赤色に熟す。沿海地の林縁。	ニシキギ
テリハノイバラ	照葉野薔薇。葉面に光沢があるノイバラの意。栽培バラの台木。河原や海岸の砂地に生える。	バラ
トウオガタマ	唐招霊。別名カラタネオガタマ(唐種招霊)。中国原産で明治に渡来。花は黄白色でバナナの香り。	モクレン
トウカエデ	唐楓。中国原産。外国産カエデとしては最も普通に植えられる。潮風や大気汚染に強い。	カエデ
トウジュロ	唐棕櫚。中国原産。寺院や庭園に植えられる。雌雄異株。葉の先が垂れないのがジュロとの区別点。	ヤシ
ドウダンツツジ	満点星躑躅, 灯台躑躅。灯台ツツジの意味で分枝の形が灯台の脚に似ていることに由来。明治時代から栽培。	ツツジ
ドウダンツツジ2	渡来種ではといわれていたが, 1914年に四国で自生地が発見された。紅葉は美しい。本県に自生。蛇紋岩地にも自生。→シロドウダン	ツツジ
トウネズミモチ	中国原産。明治時代に渡来。ネズミモチより全体的に大きい。成長が大変早いので、緑化樹に適している。裏面から透かすと側脈がみえる。→ネズミモチ	モクセイ
トキワガキ	常磐柿。別名黒柿。常緑の柿という意。床の間の装飾用。	カキノキ
トキワサンザシ	常磐山樫子。西アジア原産。P.coccinea。葉は両面とも無毛。5-6月白花。果実は鮮紅色。→タチバナモドキ	バラ
トキワマンサク	常磐満作。常緑のマンサクの意。	マンサク
トサミズキ	土佐水木。土佐特産であることから。高知県の蛇紋岩, 石灰岩地(高塩基性)。江戸時代中期から観賞用に栽培。	マンサク
トチノキ	栃の木。本県にはない。種子のあくを抜きトチ餅を作る。花は蜜源として重要。バイオリンの裏甲板。	トチノキ
トベラ	扉。トビラの転化。枝や葉の臭気が鬼よけに良いということで、節分にこれを扉にはさみ鬼を払う風習にちなみ、「扉の木」から「扉」と呼ばれるようになった。雌雄異株。	トベラ
ドラセナ	正式属名はドラカエナ(Dracaena)属。ギリシア語のdrakaina(メスの竜の意味)に由来し、リュウケツジュ(D.draco)が竜の血と呼ばれる赤い樹脂を生じることになむ。常緑の低～高木。鉢植えの観葉植物として広く利用。園芸品種多数。	リュウゼツラン

和名	名前の由来等	科名
ドングリ	古名は「つるばみ（椽）」。朝鮮語の「kul-bam」が語源と考えられている。ドングリも「ドングル・イ」という丸いものを示す韓国語から来ているという説もある。	ブナ

和名	名前の由来等	科名
ナガバノモミシイチゴ	長葉紅葉莓。葉の形が細長いカエデの葉に似ていることにちなむ。5月に黄色い実。	バラ
ナカハラカエデ	五列槭。中国原産。葉は5~7裂。	カエデ
ナギ	榊。葉の形がミズアオイ科のコナギ(古名ナギ)に似ていることから。雌雄異株。神社や墓所によく植えられる。	マキ
ナツツバキ	夏椿。別名シャラノキ。夏(6-7月)にツバキに似た花を咲かせることから。インドの娑羅樹(シャラノキ)と間違ったことから。	ツバキ
ナツフジ	夏藤。花は7-8月で淡黄白色の花。つるは左巻きで、葉は両面とも無毛。	マメ
ナツミカン	夏蜜柑。山口県長門市青海島が発祥で推定250年の天然記念物がある。発見当時は化け物と称してほとんど顧みられなかった。最近酸度の低い甘夏の系統に押され、酸度の高い普通ナツミカン栽培は激減している。	ミカン
ナツメ	棗。中国原産。初夏に芽を出すことから。果樹として平安時代から植えられている。材は緻密で加工が容易なため、彫刻や馬の鞍に使われた。	クロウメモドキ
ナナミノキ	七実木。別名ナナメノキ。美しい実がたくさんなるので七実の木とかモチノキに似て実が長いのでナガミノキがなまったとか諸説あり。雌雄異株。	モチノキ
ナロ	→鹿児島方言。→サワラ。	ヒノキ
ナワシロイチゴ	苗代莓。苗代の頃に実が熟するため。田んぼの畦のような日当たりのよい草地、林縁、ススキ草原にある。7~9月に赤い実。	バラ
ナワシログミ	苗代菜蓂。初夏の苗代の頃に実が熟するため。空中窒素固定を行う。葉裏は全体に鱗毛に覆われ、灰褐色の地に褐色の点が散らばる。	グミ
ナンキンハゼ	南京黄櫨。果実から油を取り、ろうそくを作る。有毒。紅葉が美しい。	トウダイクサ
ナンテン	南天。漢名の南天燭や南天竹からついた。難を転ずるに通じ、庭に植えた。国内の自生は疑問視されている。果実を煎じて咳止め、悪酔い、魚中毒に、葉を強壮薬、樹皮には知覚神経を麻痺させる成分。	メギ
ナンヨウスギ	別名シマナンヨウスギ。オーストラリア、南太平洋原産。雌雄異株。奄美地方で庭木として植えられる。	ナンヨウスギ
ニガイイチゴ	苦莓。実に苦みがあることから。日当たりのよい、石混じりのやせた場所。6月頃赤い実。	バラ
ニガキ	苦木。莖や葉に強い苦みがあることから。雌雄異株。健胃薬に用いる。奇数羽状複葉。	ニガキ
ニセアカシア	別名ハリエンジュ。北米原産。砂防用に植えられ、崩壊地、河岸、海岸等に野生化。花は香りがよい。蜜源樹。別名は種小名のpseudoacaciaを直訳したもの。Pseudoは「偽の」という意味。	マメ
ニセアカシア2	北原白秋作詞、山田耕筰作曲の「この道」の歌詞に出てくるアカシヤはこの木だといわれている。	マメ
ニッケイ	肉桂。中国原産と考えられていたが、沖縄に野生種が見つかった。徳之島。葉はやブニッケイよりも細長く、裏面に伏毛。	クスノキ
ニッケイ2	樹皮や根の皮は桂皮(けいひ)といって薬用や香辛料。江戸時代から栽培。鹿児島方言でケセン、けしんの木と呼ばれる。けせんだごを作る。	クスノキ
ニッポンタチバナ	日本橘。ヤブコウジ科のカラタチバナと区別するため。実は酸味が強烈なので、利用されない。花が白くて美しいから記念樹として植える。奄美以北の沿海地。	ミカン
ニワトコ	庭常。庭ウツギの転化で古名ミヤツコギがミヤトコになったという説。骨折の治療に使われることから、接骨木という。	スイカズラ
ニワトコ2	葉や花を乾燥して、解熱、利尿などの薬に利用する。髄は顕微鏡観察用の切片を作るときに、材料をはさんで切るのに使われる。	スイカズラ

和名	名前の由来等	科名
ニンジンボク	人参木。中国原産。葉の形がウコギ科のチョウセンニンジンに似ているため。独特の芳香があり、果実を風邪薬や浴湯料にする。	クマツツラ
ヌルデ	白膠木。木に傷つけて漆液を出し、それを塗ることから。虫えいにはタンニンを含み、鉄と混ぜてタンニン鉄を作り、お歯黒の材料とした。	ウルシ
ネコヤナギ	猫柳。別名タニガワヤナギ。雌雄異株。ふっくらした花を猫の尾に見立てた。川沿いに多い。県内各地（南限：根占雄川滝，川辺万之瀬川発電所）。	ヤナギ
ネジキ	楡木。幹がねじれていることによる。枝や冬芽が美しいので、花材に使われる。有毒植物。ヤギが葉を食べて死んだという記録がある。	ツツジ
ネズ	杜松。別名ネズミサシ，ムロ。県内にはない。雌雄異株。ネズミサシは，ネズミの通路におくと葉が刺すことからいい，和名はその略。特有な香気がある。	
ネズミモチ	花の香りはよくない。葉はモチノキに似て，果実は秋に黒熟し，楕円形であり，ネズミの糞に似るところから。裏面から透かすと側脈が見えない。→トウネズミモチ	モクセイ
ネムノキ	合歓木。夜には葉を閉じることから。樹皮にはタンニンが含まれ，薬用（打ち身，咳止め）。	マメ
ノイバラ	野薔薇。野に咲くバラの意。道ばたや河岸などにはえる落葉。赤い果実は莢実（赤い星，火星）といい薬用。花は蒸留して香水を取る。花の露という。	バラ
ノカイドウ	野海棠。野生のカイドウ（ミカイドウ）という意味。霧島えびの高原特産。絶滅危惧Ⅰ類。	バラ
ノコンギク	基部から出る3脈が目立つ。大きな鋸歯がまばら。柄はほとんどない。莖や葉に短毛がありざらつく。そう果の冠毛は長い。→ヨメナ	キク
ノブドウ	野葡萄。野に生えるブドウの意。実は緑，白，赤紫，青，紫と美しいが有毒とされる。	ブドウ
ノリウツギ	糊空木。幹の内皮で紙漉き用の糊をつくることから。	ユキノシタ

和名	名前の由来等	科名
ハイノキ	灰木。大量の木灰が取れ、しかも上質であることから、古くから利用されてきた。特に染色の媒染剤として利用される。	ハイノキ
ハイビスカス	扶桑花、仏桑花。中国南部原産。Hibiscus（フヨウ）属の発音をカタカナにしたもの。和名ブッソウゲ。和名は漢名扶桑（ぶっそう）に花（げ）を加え、音読みしたものとされるが不明な点が多い。	アオイ
ハイビスカス2	フヨウ属の交配により作出された園芸品種の総称。ハワイ州の州花、マレーシアの国花、沖縄市の市花で品種は3千種以上。	アオイ
ハウチワカエデ	別名名月カエデ。天狗の羽うちわにたとえた。別名は秋の名月の光で紅葉が見られるという意。	カエデ
ハクウンボク	白雲木。白い花が満開になった様を白雲に見立てた。葉が亀の甲羅に似ているから大亀ともいう。	エゴノキ
ハクサンボク	白山木。石川県の白山に生えると誤認したもの。関東地方にも自生し始めた。	スイカズラ
バクチノキ	博打木。樹皮がはがれるのをバクチに負けて裸になるのになぞらえた。マホガニーの代用として家具材、器具材。葉を水蒸気蒸留してバクチ水を取り咳止め薬。樹皮から黄色の染料。	バラ
ハクモクレン	白木蓮。中国原産。3-4月に白い花。葉裏の脈状に軟毛。	モクレン
ハスノハカズラ	蓮葉葛。葉がハスの葉に似ていることにちなむ。	ツツラフジ
ハゼノキ	黄蘗。中国原産。ハジ、ハニシからの転化。果実から木蝨をつくり和ろうそくなどの原料とした。かつては重要な栽培樹木であった。小葉の先は細長く伸びてとがる。無毛。→ヤマハゼ	ウルシ
ハナイカタ	花が葉の中央部に着くので花筏。若葉は山菜。雌雄異株。	ミズキ
ハナガガシ	葉長檉。別名サツマガシ。個体数が少ない。葉の中央脈が突出し（→ツクバネガシと違う）、上部に鋸歯がまばら。	ブナ
ハナズオウ	花蘇方。中国原産。江戸時代に渡来？し庭に植えられる。葉はハート型で花期は4月、紅紫色の花が枝にびっしりとつく。	マメ
ハナソノツクバネウツギ	別名ハナツクバネウツギ。中国原産のシナツクバネウツギとユニフローラの交配種。アベリアの名で親しまれる。道路の分離帯、公園、学校に植栽。萼は基部まで2-5裂。	スイカズラ
ハナツクバネウツギ	→ハナソノツクバネウツギ	スイカズラ
ハナミズキ	花水木。北米原産。葉がミズキに似る。花はゴールデンウイークに咲く。白花が普通。赤花の品種もある。	ミズキ
ハナミョウガ	花苕荷。花咲くミョウガの意。葉はピロード状の毛が一面に密生し、光沢がない。	ショウガ
ハマオモト	別名ハマユウ。別名は白色の葉鞘により浜木綿と書く。年平均気温15度の等温線が北限と考えられている。	ヒガンバナ
ハマクサギ	浜臭木。海岸に生え、葉に悪臭があることから。5-6月淡黄色の小さな花。	クマツツラ
ハマゴウ	単葉蔓荊。海岸に生育し、折ると臭気がある。ミツバハマゴウの実は蔓荊子（まんけいし）と呼び、頭痛薬、解熱薬等に使う。琵琶湖岸にも生育。	クマツツラ
ハマサルトリイバラ	浜猿捕茨。海岸に生えるサルトリイバラの意。葉は裏も緑色で、茎にトゲが無く、果実は黒熟し白い粉状のものをまとっている。	ユリ
ハマセンダン	浜柃。海岸に生え、柃に似るの意。若枝は黒褐色。センダンは緑色。種が小さい。雌雄異株。モンキアゲハ、カラスアゲハの食。	ミカン
ハマナツメ1	浜棗。海岸に生え、ナツメの葉の形に似ていることから。落葉。葉の付け根に托葉の変化した鋭いとげのため別名「トリトマラス」。絶滅危惧 I B類。	クロウメモドキ
ハマナツメ2	キリストのいばらの冠はこれで作られた。お椀を伏せたような果実。果皮はコルク質でできており水に浮き海流によって散布。海流散布植物の樹木は温帯では珍しく、他にハマボウやハマジンチョウがある。	クロウメモドキ
ハマヒサカキ	海岸に生えるヒサカキの意。雌雄異株。境界木として、ひさかきより優れる。	ツバキ

和名	名前の由来等	科名
ハマビワ	浜枇杷。海岸に生えビワの葉に似るから。雌雄異株。種子からはシロダモ同様に油を取りろうそくを作った。	クスノキ
ハマボウ	浜朴。海岸に生えるホオノキの意。7-8月、朝開いて夕方しぼむ。	アオイ
ハヤトミツバツツジ	隼人三葉躑躅。高隈山が基準標本産地。別名イワツツジ。ほかのミツバツツジより開花期が早く花持ちがよい。葉は肉厚で光沢があり、紅葉も美しい。絶滅危惧Ⅰ類。	ツツジ
ハリエンジュ	針槐。北米原産。砂防用に植えられ、崩壊地、河岸、海岸等に野生化。花は香りがよい。蜜源樹。別名は種小名のpseudoacaciaを直訳したもの。Pseudoは「偽の」という意味。	マメ
ハリギリ	針桐。枝に針があり大きな葉を桐に見立てた。山菜。材は白色で木目がはっきりしている。	ウコギ
ハリグワ	針桑。中国原産。葉腋に枝の変形した鋭い針がある。果実は11月に熟し食べられるが、日本に雌株はほとんどない。カイコのえさ用に栽培。野生化。	クワ
バリバリノキ	鹿児島県での呼び名が和名となった。硬質の葉が風に揺られるときの音に基づく。	クスノキ
ハリモミ	針樅。南限霧島。さわると痛い。	マツ
ハルニレ	春楡。ニレといえば、ハルニレを指す。エルムの名でも親しまれる。春に花や実がつくから。	ニレ
ヒイラギ	柊。葉のトゲが鋭いのでひらぐ（痛い）の意。対生。材は緻密で硬いのでカンナ、ノミやナタの柄に使用。節分にはヒイラギを門口に置き、これで鬼の目をつぶして難を逃れるといわれている。	モクセイ
ヒイラギ2	葉身は3~7cmでヒイラギモクセイより小ぶり。枝にギンモクセイのような皮目がほとんどない。老木の葉は全縁となる。	モクセイ
ヒイラギスイナ	若い葉は鋭い鋸歯があり、ヒイラギに似ることから。奄美大島以南に分布。	ユキノシタ
ヒイラギナンテン	柊南天。中国、台湾、ヒマラヤ原産。17世紀に渡来。6-7月に白粉を帯びた暗紫色の果実。→ホソバヒイラギナンテン	メギ
ヒイラギモクセイ	花は白いが、香りはあまり無い。ヒイラギとギンモクセイの雑種と言われている。葉はヒイラギより大型で、刺はヒイラギより鋭くなく、表面の光沢は少ない。全縁の葉はほとんどない。	モクセイ
ヒイラギモチ	柊糰。別名ヒイラギモドキ。中国原産の低木。花は黄色を帯び、非常に良く結実し、赤く美しい。→セイヨウヒイラギ	モチノキ
ヒイラギモチ2	葉はほとんど4角形をなすが、5またはそれ以上の鋭い刺をもち、成木の葉は全縁に近くなる。	モチノキ
ヒカンザクラ	緋寒桜。カンヒザクラともいう。中国からヒマラヤまで分布。	バラ
ヒコサンヒメシヤラ	英彦山姫娑羅。九州の英彦山に多く産するため。ヒメシヤラより花は大きく、ナツツバキよりは小さい。果皮は無毛。	ツバキ
ヒサカキ	姫サカキのなまり。サカキが少ない地方では、これをサカキの名で神事に使う。	ツバキ
ヒシバウオトリギ	→エノキウツギ	シナノキ
ビゼンマユミ	肥前真弓。初め、九州地方の諫早、旧名肥前国で発見されたことによる。常緑。吾平町の町木。	ニシキギ
ヒトツバ	シダ。	ウラボシ
ヒトツバタゴ	別名ナンジャモンジャ。タゴはトネリコのこと、葉が単葉なので一つ葉の名が付いた。長崎県対馬は国の天然記念物。	モクセイ
ピナス・エリオッティ	Pinus Elliottii。キューバマツ。北米東部、キューバ原産の亜熱帯性松。松脂用に植栽。京都大学にあり。3葉。	マツ
ヒノキ	檜。火の木の意。昔この木をこすりあわせ火を起こした。日本の針葉樹で最も評価が高く建築材として重用。世界最古の法隆寺はヒノキで作られている。仏像や能面。	ヒノキ
ヒマラヤスギ	別名ヒマラヤシダー。西ヒマラヤ~アフガニスタン東部原産。明治初期に渡来。ヒマラヤ産のスギという意。樹形が美しい。球果はバラの花のようでドライフラワー。庭園樹、公園樹。根元にほかの植物が生えにくい。	マツ
ヒマラヤトキワサンザシ	ヒマラヤ原産。昭和初期渡来。花や果実が美しい。葉は無毛で2-5cm、トキワサンザシより幅が狭い。花期は5-6月。花序に細毛。	バラ

和名	名前の由来等	科名
ヒムロ	Chamaecyparis pisifera cv Squarrosa。サワラC.pisiferaの1園芸品種。名は姫ムロの略で、ムロはネズの名でネズに煮た葉で軟弱という意味。	ヒノキ
ヒムロ2	別名ヒムロスギ。古くからあるドワーフ（わい性）コニファーの一つ。生け垣や庭木に利用されるが、最近ではあまりみかけなくなった。葉は軟質で偏平、粉白色を帯びた緑色。	ヒノキ
ヒメコウソ	姫楮。紙を作るコウソは本種とカジノキの雑種。	クワ
ヒメコマツ	→ゴヨウマツ	マツ
ヒメシャラ	姫娑羅。ナツツバキを誤って娑羅（シャラ）と呼び、その小型種という意。5月に花。果皮は有毛。	ツバキ
ヒメユズリハ	姫讓葉。海岸沿いに生える。縄文時代に石斧の柄などに利用された。葉が小型でまとまっているため、庭園や公園に植えられることが多い。→ユズリハ	トウダイグサ
ヒメリンゴ	姫林檎。中国から導入したイヌリンゴと同種？エゾノリンゴとイヌリンゴの雑種？という説。庭木。	バラ
ビャクダン	白檀、梅檀。インド原産。Santalum album L.。サンスクリット語のチャンダナ（candana）が中国でチャンタン（chan-tan, 梅檀）となり日本に伝えられたもの。	ビャクダン
ビャクダン2	材は精油を含み強い芳香があり、仏像、宝石箱、彫刻などにつかわれる。特に香気が多い部分は香木「梅檀」として珍重。精油は白檀油といい、香料や医薬用。	ビャクダン
ビャクダン3	発芽後1年間は自生するが、その後は寄生根を出して他樹に寄生する半寄生。寄主はモクマオウ(Casuarina stricta)、ビルマゴウカン(Albizia lebbeck)、タイワンニンジンボク(Vitex negundo)がよく利用される。	ビャクダン
ハクリョウ	百両→カラタチバナ	ヤブコウジ
ヒヨドリバナ	ヒヨドリが鳴く頃（夏から秋）花が咲くことにちなむ。フジバカマに似るが、莖は短毛があり、紫色の細点があり、香気は少ない。葉裏に腺点がある。	キク
ピラカンサ	ピラカンサ(Pyracantha)属の総称で、タチバナモドキ、ヒマラヤトキワサンザシ、トキワサンザシが導入されている。	バラ
ビロウ	枇榔。県内各地の海岸沿い。葉は笠や扇などの材料。名は別種ピンロウジュのピンロウが転化したもの。	ヤシ
ビワ	琵琶。葉の形が楽器の枇杷に似ているから。材は緻密でねばり強いため櫛、木刀など。乾燥葉は暑気払いに飲用。	バラ
ビワ2	中国からの渡来といわれているが、大分県、山口県、福井県などで野生が確認されており、奈良時代からビワの記述があり、古くから日本にあった。	バラ
フウ	台湾原産。江戸時代に渡来。和名は漢名楓の音読み。葉は掌状で3浅裂。樹脂は楓香脂といい結核などの薬とした。→アメリカフウ	マンサク
フウトウカズラ	風藤葛。雌雄異株。コショウの仲間であるが、辛みはない。	コショウ
フェイスジョア	南米原産。植物学者フェイスホアにちなむといわれるがはっきりしない。熱帯果樹。花が美しい。昭和の初めに渡来。	フトモモ
フェニックス	カナリヤ諸島原産。和名カナリーヤシ。雌雄異株。低温に強く、公園や街路樹。果実は橙色に熟し食べられる。	ヤシ
フカノキ	？。フカノキ属はホンコンカボック（ヤドリフカノキ）やウェヌロサなどが観葉植物として栽培。	ウコギ
フジ	藤。種子は食べられるが、多量に食べると吐く。若葉、花もゆでて食べられる。ツルは左巻き。葉裏は無毛。	マメ
フジバカマ	藤袴。奈良時代に中国から帰化した。本県にはない。香気がある。秋の七草。	キク
フトモモ	蒲桃。沖縄では野生化している。果実は淡黄色で甘酸っぱい。	フトモモ
ブナ	堅果はソバ粒に似ており、食用となる。別名シロブナ。樹皮が灰白色。南限は高隈山。	ブナ
フユイチゴ	冬苺。果実が冬に熟すことから。	バラ
フヨウ	芙蓉。名は漢名木芙蓉の略。スイフヨウ（酔芙蓉）は朝は白、夕方は淡紅色となり花が酔ったようにおもわれるところから。	アオイ

和名	名前の由来等	科名
ブラジルマツ	ブラジル、アルゼンチン原産。雌雄異株。葉は先がとがる剣状でさわると痛い。見本園。	ナンヨウスギ
プラタナス	→スズカケノキ, モミジバズカケノキ, アメリカスズカケノキ	スズカケノキ
ブルーベリー	北アメリカ原産のスノキの仲間。果実は夏から秋に青紫に熟し、食用。葉は紅葉して美しい。	ツツジ
ベニドウダン	紅満点星。霧島, 不計, 紫尾, 高隈, 甫与志, 野首(南限)。→ドウダンツツジ	ツツジ
ヘラノキ	箆の木。花序に付く総苞葉の形からつけられた。7月淡黄色の花。	シナノキ
ホウショウ	芳樟。台湾原産。栽培。葉は小さく縁は多少波打つ。材に樟脳分が少なくリナロールが多い。リナロールを取り香水原料。	クスノキ
ホウロクイチゴ	焙烙苺。果実は核果が集まって内部が空洞になっており、逆さにすると焙烙鍋(ほうろくなべ)の形になることにちなむ。	バラ
ホオノキ	朴木。古名ホオ(包)ガシワは葉に食物を包んだことによる。葉は大型で、ものを包むのに使用。材は均質で狂いが少ない。	モクレン
ホオノキ2	まな板, 刀剣の鞘, こたつのやぐらなど各方面で使用。樹皮は漢方で厚朴とよばれ腹痛, 利尿, 駆虫剤などで使用。	モクレン
ボケ	木瓜。中国原産。中国名の木瓜(モッカ)が変化したもの?小枝に刺がある。両性花と雄花がみられる。庭木, 盆栽。果実は砂糖煮, 果実酒。干した果実は薬用。	バラ
ホソイトスギ	→イタリアンサイプレス	ヒノキ
ホソバトキワサンザシ	→タチバナモドキ。	バラ
ホソバヒラギナンテン	中国原産。明治初年に渡来。日本ではあまり結実しない。	メギ
ポポー	泡泡。別名アケビガキ。北米原産。バンレイシ科の中で唯一の温帯性果実で青森まで栽培可能。明治に渡来。ビタミンA, Cほかカリウム, リン等無機イオンの含量も高く, アミノ酸のバランスにも優れる。	バンレイシ
ポポー2	栄養価も高くダイエット食品としての利用。茨城県十王町の名産品(ポポーワイン, ポポーロマン)	バンレイシ
ホルトノキ	鹿児島の方言でポルトガルの木の転化。本来はオリーブのこと。平賀源内が紀州で本種を見てオリーブと勘違いしたこと。紅葉した葉を1年中付けている。	ホルトノキ
ポロポロノキ	材がぼろぼろと折れやすいから。	ポロポロノキ

和名	名前の由来等	科名
マキバブラシノキ	槇葉ブラシノキ。別名カリステモン。オーストラリア原産で明治中期に渡来。マキの葉に似てブラシのような花を咲かせることから。	フトモモ
マサキ1	正木。真幸（まさき；常緑の意），まさおき（真青木）のつまったものか，籬木（ませき）の転化したもの。	ニシキギ
マサキ2	刈り込みにも強く，乾燥にも耐えるので，生垣として利用される。	ニシキギ
マタタビ	木天蓼。アイヌ語のマタタムブが由来で，マタは冬，タムブは亀の甲の意で虫えいの果実をいう。全草とくに果実は猫に対し特別の作用がある。雄猫には効果が高い。雌雄異株。	マタタビ
マテバシイ	別名サツマジイ，マタジイ。由来は不明。防風樹や火事の延焼を防ぐ防火樹として植栽。どんぐりは2年かかって熟する。食用となる。	ブナ
マメガキ	→シナノガキ	カキノキ
マメツゲ	別名マメイヌツゲ。イヌツゲの園芸品種。丸く光沢の良い小型の葉を蜜につけ，分岐性が強く刈り込み作りに多用され，江戸時代から利用。	モチノキ
マメツタ	シダ。	ウラボシ
マユミ	真弓。昔，枝がよくしなるので弓を作ったことに由来する。果実や紅葉が美しいので庭木にされる。材は象牙色で緻密，工芸品に適している。新芽は山菜。開聞，坊津，佐多辺塚南限。	ニシキギ
マルバウツギ	乾燥する岩場，林道の切り取り法面，崖などに生育。	ユキノシタ
マルバグミ	丸葉菜蓂。葉の裏面は鱗毛におおわれ銀白色で広卵形。実は春に熟し，食べられる。→グミ	グミ
マロニエ	別名セイヨウトチノキ。ギリシャ東部～小アジア原産。花期は5-6月で白色に少し赤みがさした花を多数つける。パリの街路樹は有名。鹿児島市草牟田のマロニエは5月上旬に咲き，報道される。	トチノキ
マンサク	満作。春，他樹種に先駆けてまず（東北弁でまんず）咲くから。	マンサク
マンリョウ	万両。名前の縁起の良さから正月の飾りに使われる。空中窒素固定を行う。果実の色には黄，白もある。	ヤブコウジ
ミカイドウ	実海棠。中国原産。別名ナガサキリンゴ。あまり栽培されていない。長崎に渡来し，世に広まった。	バラ
ミズキ	水木。水気の多い場所に生育し，切ると，切り株から水をあげる性質があることから。葉は互生で輪生状に着く。	ミズキ
ミズナラ	水楸。材に多量の水分を含み，燃えにくいから。	ブナ
ミズメ	水芽。別名ヨグソミネバリ，アズサ。樹皮を傷つけると水のような樹液が出ることから。樹皮はサクラに似る。枝を傷つけるとサロメチールの匂いがする。黄葉が美しい。	カバノキ
ミツバアケビ	三葉木通。3小葉で落葉。雌雄異花。	アケビ
ミミズバイ	果実がミミズの頭に似ていることによる。	ハイノキ
ミモザ	別名フサアカシア。オーストラリア，タスマニア原産。花期は2-3月で濃黄色の花を多数つける。庭木，切り花。花は香水の原料。フランスではミモザとして知られ，ミモザ祭りに使われる。	マメ
ミヤマシキミ	深山樾。葉がシキミに似て，山奥に生えることから。有毒。雌雄異株。マンリョウの代用とした。	ミカン
ムクゲ	木槿。中国原産とされるが不明。白花のつぼみを乾燥したものは，下痢止め，胃腸カタルの薬として使われる。韓国には自生種はないが，国花になっている。	アオイ
ムクノキ	椋木。ムクドリが好んで実を食べる木だから。秋に実は黒熟し，子どもが食べた。	ニレ
ムクロジ	無患子。中国から来たという説もある。モクゲンジの漢名（木患子）を謝って使ったことからきた。果皮にはサポニンを含み，石けんの代用とした。種子は羽根突きの球に使う。	ムクロジ
ムベ	苣荳子。昔この実を籠に入れて朝廷に献上したので大にえ，苞苣（おおむべ）といった。これがウムベ，ムベと転化。常緑。	アケビ

和名	名前の由来等	科名
ムラサキシキブ	紫式部。優美な紫の果実を紫式部の名を借りて美化したもの。コムラサキに比べて実の付きはやや散漫。	クマツツラ
メキシコラクウショウ	Taxodium mucronatum。「トウレの樹」。メキシコ南部原産。1400-2300mの高地に産する。巨木になり、世界一太くなる。メキシコのオアハカ州トウレ村の個体は地際幹周58m。	ヌマスギ
メタセコイア	中国原産。別名アケボノスギ。1945年に発見され生きた化石として有名。成長が早く樹形が美しい。公園樹。一時は造林されたが材が軟らかい等の問題点あり。葉は対生→ラクウショウ互生。	スギ
モクレイシ	木荔枝。雌雄異株。	ニシキギ
モクレン	木蓮。別名シモクレン。中国原産。3-4月に紅紫色の花。→ハクモクレン	モクレン
モチノキ	麴木。樹皮から鳥もちをつくったことから。雌雄異株。	モチノキ
モッコク	木斛。語源は不明。庭木の王様と呼ばれる。沖縄では重要な建築材、首里城正殿にも使われた。樹皮はタンニンを含み、茶褐色の染料。	ツバキ
モミ	樅。材は古くから卒塔婆、棺桶に使われた。樹皮は灰褐色。	マツ
モミジハススカケノキ	別名プラタナス。スズカケノキとアメリカスズカケノキの交配種。英国で作られ、明治中期に渡来。葉は浅く3-5裂。スズカケノキの仲間では最もよく植えられる。	スズカケノキ
モミジバフウ	北米中南部～中米原産。別名アメリカフウ。黄色から紅紫色に紅葉。葉は掌状に5中裂。	マンサク

和名	名前の由来等	科名
ヤクシマオガラバナ	別名ヤクシマオナガカエデ。雌雄異株。屋久島特産のカエデ。ホソエカエデに似るが、ホソエカエデは葉裏の脈腋に赤褐色の毛がない。	カエデ
ヤクシマオナガカエデ	→ヤクシマオガラバナ	カエデ
ヤクシマサルスベリ	屋久島百日紅。屋久島、種子島特産。花は6-8月、白色。	ミソハギ
ヤクタネゴヨウ	屋久種子五葉。種子島と屋久島だけに産する5葉松。磯庭園に大木。	マツ
ヤシャブシ	夜叉五倍子。球果にタンニンが多く五倍子と同じ用途があるため。早期緑化。空中窒素固定。ドライフラワー。	カバノキ
ヤタイヤシ	→ココスヤシ	ヤシ
ヤツデ	八手。別名テングノハウチワ。多く分裂した葉を「八つ手」に見立てた？便所の近くにナンテンとヤツデを植え、「ナンでもヤツデこい」と縁起をかつぎ、魔よけにする風習がある。	ウコギ
ヤドリギ	寄生木。雌雄異株。	ヤドリギ
ヤナギイチゴ	柳苺。柳の葉に似るところから。実は橙色に熟し、食べられる。	イラクサ
ヤブコウジ	藪柑子。マンリョウやセンリョウに対して品格が落ちるため、十両の方言もある。正月の飾りに使われる。	ヤブコウジ
ヤブコウジ2	根は紫金牛といい解毒、利尿剤として用いることがある。江戸期寛政年間に様々な品種が作られ、流行した。	ヤブコウジ
ヤブツバキ	藪椿。別名ツバキ。アツバキ(厚葉木)?ツヤバキ(艶葉木)?ツハキ(強葉木)?。ツバキ油をとる。	ツバキ
ヤブデマリ	藪手鞠。本県にない。標高50-1300mの丘陵地や山地、溪流沿い。	スイカズラ
ヤブニッケイ1	藪肉桂。藪に生えるニッケイの意。葉の裏面は無毛。種子から香油。葉や樹皮は薬用。→ニッケイ	クスノキ
ヤブニッケイ2	葉脈上に点々と虫こぶができる。ニッケイトガリキジラミが作るニッケイハミヤクイボフシという虫こぶ。	クスノキ
ヤマアジサイ	山紫陽花。別名サワアジサイ。山地の湿った木陰などに多い。	ユキノシタ
ヤマウルシ	山漆。山に生えるウルシの意。全体に毛がある。雌雄異株。小葉は丸みがある。	ウルシ
ヤマグワ	山桑。クワは食葉(くは)と蚕葉(こは)の転化でカイコが食べる葉という意。雌雄異株。実は黒熟し、クワより美味。材は楽器、鏡台等に用いられる。根の皮は薬用。葉は養蚕。	クワ
ヤマザクラ	山桜。良質なチップであり薫製作りに使用。→サクラ	バラ
ヤマツツジ	尾根などの痩せ地に生える。→ツツジ	ツツジ
ヤマトアオダモ	別名オオトネリコ。大口、高隈。	モクセイ
ヤマハギ	山萩。ハギは日本の字であり、秋に咲く草の意味。	マメ
ヤマハゼ	山樫。雌雄異株。本種が昔のハゼノキである。ニハジ、ニハニシ。小葉には毛があり、細長い。	ウルシ
ヤマビワ	山枇杷。葉がビワの葉に似ていることから。古くはヤマビワをヒノキでできた火切板にこすりつけて火を起こしていた。伊勢神宮では今でもそのやり方を伝えている。	アワブキ
ヤマフジ	山藤。別名ノフジ。右巻きに巻き上がる。花期は5月で藤色の花。葉は両面に細毛、裏は密に生える。観賞用。	マメ
ヤマボウシ	山法師。雌雄異株。つぼみの集合を坊主頭に、総苞を頭巾に見立てた。実は食べられる。	ミズキ
ヤマモミジ	山紅葉。日本海側のオオモミジがないところに分布する。裂片は普通9個。ふぞろいの欠刻状の重鋸歯。	カエデ
ヤマモモ	山桃。古来より食べられており、山百々の意味で数の多いことを示す。雌雄異株。果実は食用となり、果実用の品種もある。徳島県が有名な産地。	ヤマモモ
ヤマヤナギ	山柳。県内各地(種子島以北)。雌雄異株。治山木柵工の柳。最も普通に見られる。	ヤナギ
ユーカリ	ユーカリノキ(Eucalyptus)属の総称、数百種あり、うち約12種はコアラのえさ。精油は咳止め、歯痛止め、駆虫、香料に使われる。	フトモモ

和名	名前の由来等	科名
ユズリハ	譲葉。雌雄異株。新しい葉が出るまで古い葉が残ることから、ダイダイ（代々にかける）と組み合わせて、成長した子供があとを譲るのにたとえ縁起をかつぎ、正月の飾り物に利用。	トウダイグサ
ユッカ	イトラン(Yucca)属。葉は剣状で上部に集まって付き、垂れ下がらない。高さ数mに達するものもある。観賞用に利用。イトラン、キミガヨランなどがある。	リュウゼツラン
ユリノキ	百合の木。北米原産。明治に渡来。別名ハンテンボク、チューリップツリー。蜜源木。5-6月チューリップのような花。	モクレン
ヨグソミネバリ	→ミスメ	カバノキ
ヨメナ	鋸歯は粗い。両面はほとんど無毛で光沢有り。田のあぜなどに生える。そう果の冠毛は確認できないほど短い→ノコンギクによく似る。→コヨメナ	キク
ラカンマキ	羅漢楨。雌雄異株。種子の形が坊主頭のように、まだ仏になりきらない羅漢にたとえた。種子の基部は赤く熟し食べられる。	マキ
ラクウショウ	落羽松。北米東南部・メキシコ原産。別名ヌマスギ。葉が水平に並んで付く枝を鳥の羽に見立てて枝ごと葉が落ちることから名が付いた。沼地、川辺に生える。	スギ
ランシンボク	爛心木。→カキノキ	ウルシ
リュウキウマメガキ	別名シナノガキ。雌雄異株。葉は両面無毛。	カキノキ
リョウブ	令法。かつて救荒用に植樹を勧める令法（りょうぼう）が出されたためといわれる。佐渡の方言（ろうぼう）の転化？	リョウブ
リョウブ2	古名ハタツモリ。幾千の白旗が積もるように白い花が群れ咲く姿をいう。若葉は食用になり、りょうぶ飯などにされる。	リョウブ
リンボク	別名ヒイラギガシ、カタザクラ。本種に誤って漢名の（木+麟の右）木（りんぼく）をあてたことによる。	バラ
リンボク2	若木の葉をヒイラギになぞらえてヒイラギガシ、材が硬いからカタザクラという。葉は鋭い鋸歯がありヒイラギに似ている。	バラ
レッドオーク	Quercus rubra。別名アカガシワ。アメリカ東部原産で日本でも生産、販売される。秋には紅葉する。林試内にあり。	ブナ
レッドロビン	カナメモチとオオカナメモチの雑種。生け垣。	バラ
レンギョウ	連翹。中国原産。1680年代に渡来といわれるが、もっと前？。欧米でも広く植栽。雌雄異株。3-4月に黄色い花。	モクセイ
レンギョウ2	漢方では果実を乾燥したものを連翹と呼び解毒、消炎、利尿などに使う。トモエソウ（オトギリソウ科）の漢名連翹を誤って使用したもの。	モクセイ
ロウバイ	蠟梅。中国原産。江戸時代に渡来。花の色が蜜蠟に似ていることから。葉は対生。正月の花に使われる。1-2月黄色の花。	ロウバイ
ワタゲカマツカ	カマツカより葉が大きくて、白色の軟毛が密生し、果実にも綿毛が残る。本県にない。	バラ